91　誌上発表　『啓迪集』の小児灸法

川端かおり
鍼灸中川／日本鍼灸研究会

曲直瀬道三の『啓迪集』8巻は，元亀2年（1571）に成立し，慶安2年（1649）に刊行された医書である．全書は78門で構成され，各病門を名證，由来，弁因，證，脈法，類證，予知，治法の8項に分かって，そこに金元から明の医書を中心とする計64書を引用し，これに自説を加えている．このことは，『啓迪集』という大部の書が，金元李朱医学の多種多様な医説を整理要約することを通じて金元李朱医学の継承を計ったという側面と，独自の観点から整理することを通じて，それまでのわが国の医学には無かった察證弁治の医学を確立しようとしたものであることを意味する．

『啓迪集』の巻第八は全巻が小児門に当てられており，小児門，嬰児保護篇，詳審観察篇，雑病證治篇，疳證篇，痘疹篇から構成されている．このうち，小児の灸法条文は，嬰児保護篇の臍帯断法，雑病證治篇の五癇，亀胸亀背，痞癖，癩頭，疳證篇の疳瘦の6項に記載されている．以下，『啓迪集』の小児灸法条文について考察する．

(1) 臍帯断法

臍帯断法の論は，明の王永輔の『恵済方』と陳自明の『婦人大全良方』の経文で構成されているが，灸法条文は『婦人大全良方』の「児生三日，烙臍帯三壮為中，別処勿加火艾，恐成驚癇」を引く．

(2) 五癇

五癇の項では，明の虞摶の『医学正伝』から犬癇，羊癇，牛癇，雞癇，豬癇，『恵済方』から風癇，食癇，驚癇，痰癇，飲癇が引用されている．灸法条文は『恵済方』から「治急慢驚風危證，及諸癇痙病．絹帛縛両手足大指，甲角縫半甲半肉之間，艾灸三壮．先足，後手．或髪際，或顔会，或神庭」を引く．

(3) 亀背

亀背の項では，灸法条文として『医学正伝』から「亀背，小児生下，客風入脊，逐於骨髄，即成亀背．治之以亀尿点，骨節即平．取亀尿法，用蓮葉，置亀於上，尿自出．灸肺兪三五壮．」を引くが，その源泉は，北宋の銭乙の『小児薬證直訣』小児脈法・亀背亀胸である．ただし，「灸肺兪三五壮」は両書ともに無く，『太平聖恵方』巻第九十九の「灸肺兪，心兪，膈兪，各三壮」に基づくと考えられる．

(4) 痞癖

痞癖の論は，明の王璽の『医林集要』巻十・小児門・痞癖に依拠し，灸法条文として「灸乳下一寸，左右各三壮」，「小児癖気久不瘥，宜灸中脘一穴，章門二穴，各七壮．臍後脊中，灸二七壮」，「治小児脇下満，瀉利，体重，四肢不収，痃癖，積聚，腹痛，不嗜食，寒熱，灸脾兪二穴，各七壮」の3条を引く．このうち，「灸乳下一寸，左右各三壮」は，『千金要方』巻第五下・癖結脹満第七の「小児癖，灸両乳下一寸各三壮」が初出であるが，他の2条の典拠は不明である．

(5) 癩頭

癩頭は，『医学正伝』，『恵済方』，『医林集要』からの引用で構成されている．灸法条文は『恵済方』から「頭禿瘡秘灸」として「耳後或脳後傍，模有核如弾，按之不痛，当頭灸五七壮．如幼少，三壮即頭瘡不発」を引く．

(6) 疳瘦

疳瘡もまた，『恵済方』，『医学正伝』，『医林集要』の三書からの引用で構成されている．灸法条文は，『医林集要』から「疳瘦，灸翠尾骨上三壮．脱肛瀉血亦灸此」「瀉痢，痃癖，積聚，臍腹痛，不嗜食，痰喘，寒熱，腹脹，黄瘦，灸脾兪二穴各七壮．在十一椎両傍各一寸半」の2条を引く．この類文として，『太平聖恵方』巻第九十九に「黄帝療小児疳痢，脱肛体瘦，渇飲，形容瘦瘁，諸般医治不瘥者，灸尾翠骨上三寸骨陥間」を指摘することができる．